

認知症になっても安心して暮らせる社会を

2022 SEPTEMBER

No. 506

9

月刊 POLE-POLE (スワヒリ語)

ぼ～れぼ～れ

ゆっくり やさしく おだやかに



群馬県支部版

わたぼうし No.469

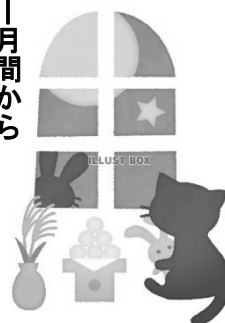
認知症の人と家族の会 理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい助け合って、人として実りある人生を送るとともに、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。

巻頭言

世界アルツハイマー月間から

クラウドファンディング、署名活動へ



9月の世界アルツハイマー月間（群馬県では認知症理解促進月間）も終盤になりました。群馬県支部にとって最大のイベントである、「世界アルツハイマーデー記念シンポジウム」も9月18日に実施することが出来ました。本人、家族の声を届けることを大事にしていく私たちにとっても有意義な会となりました。登壇者ご家族に心から感謝します。図書館等に認知症コーナーを設置していただく「読む・知る認知症キャンペーン」でも群馬県立図書館や藤岡市立図書館等にご協力いただきました。認知症の理解を広めるキャンペーンはこれまで以上に広がりを見せていることを報道から感じました。こうした取り組みを継続的に実行し、認知症の人と家族が安定した生活を営むための基盤を固めるために、認知症の人と家族の会は、財政の充実と介護保険の充実を目指して、秋口から、クラウドファンディングと署名活動に取り組みます。ご注目下さい！

目次

・巻頭言

世界アルツハイマー月間から

クラウドファンディング、署名活動へ 1頁

・おたよりから

投稿 両親とも専門家にお願ひし

4年半の私の介護に 2頁

・報告 2022 世界アルツハイマーデー

一区切りつきました 3頁

・編集後記 記念シンポジウム 4頁

これからの予定

● 10月9日（日） 渋川つどい

10時～12時 渋川市中央公民館

● 10月15日（土） 太田つどい

10時～12時 太田市蕪川行政センター

● 10月23日（日） 県央つどい

10時～12時 県社会福祉総合センター

7階第701会議室

介護家族支援講座

● 10月8日（土） 桐生市美喜仁桐生文化会館

国際会議室 10時～16時

電話相談

群馬県支部（群馬県からの委託事業）

認知症の人と家族のための電話相談

027（289）2740

本部フリーダイヤル

0120（294）456



おたよりから



たくさんの勇気をいただいて

このたび初めてつどいに出席させていただきました。とても丁寧な話を聴いていただきこちらが申し訳なく思う程でした。ほかのご家族の話を伺いたくさんの勇気をいただきました。

コロナ禍、首都圏からの出席をためらう気持ちもありますが、次回も出席させていただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

今を楽しく、元気に



夫は、夏休み中久しぶりに帰省した息子や孫たちに会っても、「誰？」という感じでほとんどわからなくなっている様子でした。でも、一緒に山を歩いたり、食事をしたりする時間は本当に楽しそうでした。今を楽しく、元気に生活していける事を喜びとしていこうと再確認しました。前に読んで認知症関連の本を再読して、認知症について共に生きる事を学び直している所です。

義母が95歳で他界しました

今月初旬、義母が95歳で他界しました。1年前からは胆管炎の悪化で病院と介護施設を行ったり来たり生活でした。

13年前認知症と診断された後、当初は様々な葛藤を本人もかかえていましたが、気の合うデイサービスに出会い楽しい時間をすごすことで大切な生活の一部になっていきました。

亡くなる3か月前には要介護1から4になりましたが、意思疎通もでき穏やかにすごすことができました。

13年間義母の介護についてアドバイスいただき本当にありがとうございました。

とうとうコロナが発生



母の入所先の施設もとうとうコロナが発生し、検査をすることになり本当に大変な世の中になってしまいました。ご自宅で介護されている方の心労を思うと本当に他人事ではありません。

暑さも続きますが、どうぞ皆様もお気を付けて。

投稿

両親ともに専門家をお願いし
4年半の私の介護が一区切りつきました

両親が同時に認知症に

私63歳は、4年半前実の両親がほぼ同時に認知症になりました。父85歳、母83歳。父はアルツハイマー型で、母は脳梗塞で倒れてからです。

色々ありました。母のお金盗られから始まり、10分おきに「私のご飯はまだ？」等々。母はデイサービスに行ったのですが、途中でやめ、父はデイのお試しの日から一歩も家を出ませんでした。幸いなことに家が隣で別々だったので堪えられました。

「家族の会」で聴いてもらう

4か月くらいたった頃、「家族の会」を知り、話を聴いてもらえ涙が出ました。認知症介護家族支援講座で小規模多機能型という施設があるのを知り、母はピッタリはまり馴染みました。

ケアマネの努力で、父も半日のリハビリデイに通いはじめ、昼食は市の配食サービス・ピスを頼み、3食作るのから開放されました。

私はパートで月15日働いていま

す。一人っ子なので、夫と娘と同居してはいますが、ほとんど一人でみています。

初期の混乱期後(私はこの時期が一番大変だと思っています)穏やかな時間を過ごしました。

3年半で母は特養に入所

3年たった頃、母は圧迫骨折(腰)で入院↓老健↓グループホーム↓特養となりました。

リハビリデイをやめた父

父は膝が痛いトリハビリデイをやめ、毎日一人の生活になり、2か月くらい前から押入れの写真や書類、趣味のもの、なんでも捨てるようになってきました。では、デイサービスに行くかと聞くと、行くと言うので、ケアマネ復活で、デイサービスの事業者と三者会議となるはずでした。

行き場を失った父・・・

ところが、何をしていたかわから

●世界アルツハイマー月間●

における「家族の会」の取り組み

●群馬県認知症理解促進月間●

2022 世界アルツハイマーデー記念シンポジウム

男性介護者の語りと座談会

9月18日(日)開催

「男性介護者の思いを聞いてください」

今年も家族の思いを伝える催しを開催しました。会場参加とZOOMの併用で、参加者は合計60名でした。司会は大木美穂世話人が務めました。冒頭、ご後援いただいた県・健康長寿社会づくり推進課の佐藤友有子認知症・地域支援係長よりご挨拶をいただき開催しました。



◎講座②「意味性認知症とは」

(講師：安井順郎医師)

言語をつかさどる左右の側頭葉の萎縮を原因とする認知症。指定難病であるが、年齢が65歳以下、重症度3以上などの付帯要件有り。

■症状

・「猿も○○」「猿も木○○から」と聞いても「落ちる」が出てこない
・海老↓かいろう、団子↓だんし などと読んでしまう など

■対応の方法(残っている力を活用)

・好きなことには興味が持てる
・パターン化されたことや繰り返しすることとは得意

・介護を続けたいので続ける人が52%と半数以上占める

・記憶力は保たれている
・道具はうまく使える

なくなつた父は、近所のキュウリやナスを勝手に持って来、親戚のおばさんに抱きつきました。色ぼけです。

大変と主治医に興奮をおさえる薬を出してもらいました。ケアマネに相談し、ショートステイに入れてもらい、グループホームも新設の所に入れることになりました。ところが、ショート2日で、介護職女性の手を離さず、夜裸で隣の部屋のおばあちゃんに抱きつき、帰されました。

私は仕事を休み、父を見張る生活になりました。グループホームは断られ、もうどここのショートステイもだめになりました。

見てくれる病院があった

A市のA病院が見てくれると言うので、父を連れて車で40分、どきどきしながら行きました。

先生は強い薬を出してくれましたが、病棟は一杯で、待ち二人だそうでした。長谷川式で6/30点でした。

薬がきいたのか、父は早朝抱きついた親戚のおばさんの隣で畑の草むしりをしていました。「30分も手伝ってくれ、朝は泣いていたよ」と言われました。自分で自分がわからなく、不安なのだと思います。テレビの

つけ方もわからなくなっていました。

精神科入院にいたるまで

二日後、病院で先生にこのことを話し相談員に、私はこの15日間眠れず、胃が痛いと言えると、病院付属の老人ホームに入れてもらえることになりました。契約をすませ、4日後午前入所しました。

ところが、午後主治医から電話で、女性の入所者さんにキスをし、キャーの声でかけつけた介護者を杖でたたきなどなどのため、精神科へ保護入院となりますと言われました。

私も、父も頑張ったけれど

楽しいはずの生活だったのに、自分からダメにしたか、本能が出たかと哀れました。

主治医は私に、よく頑張ったと言ってくれました。

父も頑張りましたが、母同様、専門家をお願いすることになりました。

コロナでつどいに行けなくなりましたが、あんなにお世話になった皆様に経過をお伝えしたくて書きました。本当にありがとうございました。

シンポジウム

コーディネーター 恩田初男
コメンテーター 安井順郎

●Aさんの発言から

祖父も認知症だったので、母に物忘れが現れても、認知症と診断されても想像はしていた。要介護2となり、仕事を続けるか考えた。特養には入れない、有料ホームは無理。蓄え等々を計算し、仕事を辞めた。父を早く亡くし、女手一つで大学まで出してくれた母を安易に施設に、と思えなかった。女兄弟もいるが頼めない状況にあった。とはいえ、今徘徊が頻繁で全く目が離せないのがつらい。徘徊で大けがをし、要介護5となった。息抜きは「家族の会」などで同じ仲間と話すこと、皆さんにも勧めたい。

●Bさんの発言から

母の認知症への疑いが免許の更新で決定的になった。診断されても、シヨックより、やはり来たか！という感じだった。認知症の母に対し父は全く無理解、非協力的だった。翌年仕事を辞めた。辞めたくはなかったが、皆仕事はやめるなど言ってはくれても、辞めずに在宅介護を続けられ方法を教

えてくれる人はいなかった。長男としての使命や責任感もあったかもしれない。

やめた後、自分の時間がなく自分を犠牲にしているように思えつらかった。しかし、その後介護の資格をとって、仕事に復帰した。仕事として介護をするようになり、母への見方も変わった。今は母が可愛い。



●Cさんの発言から

診断後14年になる要介護5の妻を介護している。「通帳がない！」が始まりだった。診断を受け「やっばりそうか！」と思った。誰かに助けてもらいたいと思い「家族の会」や地域包括に連絡し助けてもらった。古希を前に仕事はやめた。夜遅く帰ると家の中は滅茶苦茶状態だった。訪問介護に入ってもらうことも考えたが、自分で看ることにした。そう覚悟してからつらいと思うことはない。楽しくやれる方法を見つけてゆくといい成果を得ることが最大のストレス解消になっている。

●Dさんの発言から

意味性認知症の妻を介護して3年になる。診断の半年前からおかしいと思いはじめた。最初は耳が遠くなったのかと思った。脳の病気であろうと病院に行ったので、認知症と診断されてもそうだろうと思った。

その後の進行は速く、重症度は4だろう。会話は95%成立しない。最近、一人で家に居たり外に出るのを嫌がるようになった。不安なのだと思う。(今日も一緒に連れてきた)

進行はしているが、いちいち気にしないことにしている。私がいさえすれば、安心なようでニコニコしている。むしろ、最近 笑顔が増え生活はしやすくなっている。町内の人には公開しており皆が気遣ってくれ大いに助かっている。



〈編集後記〉

9月号は、できるだけ早くお伝えしたいお手紙が届きましたのでその掲載を決めました。そして9月18日に開催したシンポジウムが、とても味わい深い内容でしたので、この紹介も急いで載せることにしました。

そのため渡辺先生の連載は休載といたしました。(田部井康夫)